

## 第6学年2組家庭科学習指導案

令和元年10月21日

展開学級 自教室

### 1 題材名 共に生きる生活

### 2 題材について

本題材は、これまでの家庭科学習の総まとめとしても位置づけられる題材であるが、新学習指導要領の内容項目としては、主に次に述べる内容を受け設定している。

- ・A(3)ア(イ)「家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解すること」イ「家族や地域の人々とのより良い関わりについて考え、工夫すること」
- ・C(2)ア「自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した生活の仕方などについて理解すること」イ「環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること」

本題材では、これまでに得た知識・技能をもとに、自分の生活の仕方をもう一度振り返り、環境に配慮した生活の仕方などについての課題を見付け、解決の手立てを工夫し、実践して取り組むことをねらいとしている。

児童はこれまでの学習で新学習指導要領B「衣食住の生活」の学習において、C「消費生活・環境」の内容を関連させて学習を行っている。例えば「いためて作ろう朝食のおかず」では、食べ残しやプラスチックごみについて話し合った。また、「楽しくソーイング」では、布の切れ端の活用について学んでいる。さらに、総合的な学習の時間には地域教材を活用しながら、おゆみ野の町のよさや地域参画へ向けた学習を行ってきている。

新学習指導要領の総則の中には、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の作り手となることが期待される児童」とある。また、国連の開発目標であるSDGsの17の目標もインターネットやテレビでよく見かけるようになり、世界的に取り組もうという機運も高まっている。近年求められている「持続可能な社会」を構築するためには、環境に配慮した生活の仕方を知っているだけではなく、自分の身の回りの環境に配慮した行動ができる力や、地域の人・家族と協力しながら行動できる力が必要である。

これらの力を育むためには、学習計画を工夫する必要があると考える。そこで、本題材は3つの小題材から学習を設定する。最初の小題材では、持続可能な社会を目指して、普段の行動を振り返りながら環境に配慮した住まい方を実践する力を育む。次の小題材では、学校の中で自分たちにできることを考え実践する力を育む。最後の小題材では、地域の中で自分にできることを考え実践する力を育む。これまでの家庭科学習で培った知識や技能を活用しながら生活を総合的に捉え、地域の人々との関わり方についても一人一人の思いや課題に主体的に取り組めるようにし、実践的な態度が育つよう配慮したい。

### 3 視点との関連

#### 視点1 (2) 他学年及び他教科等の内容との関連

「消費・環境」の内容に対して、児童はこれまでに社会科や理科の学習で環境に配慮した生活の仕方についてある程度の知識を得ている。例えば、水や石油などの有限性やごみが適切に処理されると資源となり、循環していることは理解している。しかし、日常生活の中でそれらを意識して自分の行動を振り返る機会はありませんと考える。そこで、日常の行動が環境に与える影響を理解して、環境を考えた行動を日常生活で実践する場として本題材を設定する。また、現在、総合的な学習の時間において自分たちの町をテーマで学習を行っている。「家族や地域との関わり」の内容に関しては、この学習と関連を図り、地域住民の思いを聞いたり、自ら調査したりする活動を通して、実践の動機付けを行っていく。

#### 視点2 (1) 学習過程を工夫した問題解決的な学習

地域との関わりには、児童の身近な環境が大きく関わっている。特にごみの処理については地域やPTA活動でも積極的に取り組まれている。しかし、エネルギー問題に視点を向けた場合、地域の中での実践を計画することは容易ではないと考える。そこで、学習計画を環境問題に取り組む前半と地域との関わりを意識して取り組む後半に分けて計画する。はじめに、環境問題を扱う際には写真の資料やこれまでの学習の様子から課題を見付け、自分たちの行動を振り返ることから問題解決的な学習を計画していく。

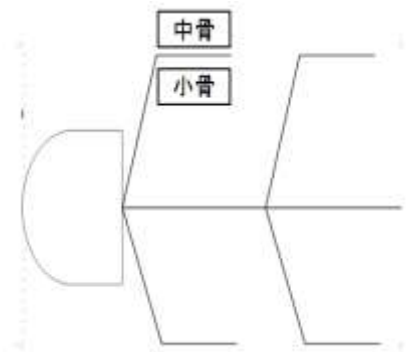
次に、地域との関わりを扱う際には、総合的な学習の時間で調査した内容から地域の課題を見付けていく。その際には、地域生活のマナーや地域行事への参画に児童が目を向けられるように意図的に発問し、課題を設定していく。地域行事としては、毎年10月にある秋祭りや1月のマラソン大会などと、具体的な行事を取り上げながら実践に向けて話し合う活動を取り入れる。

#### 視点2 (3) 思考過程を可視化できる思考ツールやワークシートの活用

本題材では、持続可能な社会を目指した学習を意識させるためにSDGsを扱っていききたい。しかし、児童にとっては馴染みがなく難しい内容もあるため、自分たちの行動がSDGsの目標達成につながっていることを意識できる程度に触れていききたい。そこで、題材を通して、ワークシートにSDGsの達成目標のマークを載せ、学習の振り返りの際に丸をつける活動を行う。自分の活動が世界的な取り組みに繋がっていることを意識することで、実践意欲を向上させていきたい。

実践内容を比較検討する活動では、思考ツールを活用させる。例えば、実践内容を考える段階ではフィッシュボーンを扱う。節水を実践する児童の場合は自分の家のどこで節水できるか具体的にイメージして、洗面所、お風呂場、キッチン、庭という場所を中骨に挙げる。小骨には「こまめにシャワーを止める」「洗い桶を使う」という具体的な取り組みを書かせる。このように、実践内容をより具体的に考えるための手段として思考ツールを活用させていきたい。また、グループの話し合いの際にもこの枠があることで内容が具体的となり、話し合

いが活発になると考える。



### 視点3 (2) 自分の成長に気付く評価の工夫

「わたしの生活時間」では、実践課題を個人で考えて計画を立てた。実践内容は友達との交流をもとに考えたが、「なんとなく取り組んだ」「成果がわからなかった」という振り返りがほとんどで、実践の有用性が実感できなかった。そこで、小題材「持続可能な社会を目指して」では、まず、環境に配慮した生活の仕方を話し合う活動を通して、自分の生活を調査する観点に気付かせる。実践する観点をもって家庭を調査することで、我が家の課題が見付けやすくなるのではないかと考える。そして、調査活動では、児童が考えた観点到合わせて調査を行い、我が家の取り組みを3段階で評価する。評価が低いものが課題となり、実践による変容も把握しやすくなるだろう。また全員で観点を共有することで、行動が改善されたときに自己評価・相互評価がやりやすくなると思う。

また、家庭環境により児童が思うように実践できなかった場合も、実践計画の妥当性や改善するための考え方を見取り、主体的に学習に取り組む態度を評価していきたい。

#### 4 題材の目標

- 家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解することができる。
- 環境に配慮した生活の仕方などについて理解し、基礎的基本的な知識を身に付ける。  
(知識・技能)
- 快適で安全な生活をするために、家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考えたり、工夫したりすることができる。
- 環境に配慮した生活の仕方などについて課題を見付け、解決に向けて考えたり、工夫したりすることができる。  
(思考力・判断力・表現力)
- 幼児や低学年児童、高齢者など様々な人々と共に協力し合って生活するために、自分のできることを考えて取り組んでいこうとする。
- 環境に配慮した生活の仕方などについて、よりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

## 5 題材の評価規準

知識・技能	<p>○家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。</p> <p>○環境に配慮した生活の仕方などについて理解し、基礎的基本的な知識を身に付けている。</p>
思考力・判断力・表現力	<p>○快適で安全な生活をするために、家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考えたり、工夫したりすることができる。</p> <p>○環境に配慮した生活の仕方などについて我が家の課題を見付け、解決に向けて考えたり、工夫したりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○低学年児童、高齢者など様々な人々と共に協力し合って生活するために、自分のできることを考えて取り組んでいこうとしている。</p> <p>○環境に配慮した生活の仕方などについて、よりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとしている。</p>

## 6 指導計画

小題材	他教科との関連	時数	ねらい	主な学習内容と評価（○学習内容◆評価）
持続可能な社会を目指して	4年 社会 「飲料水・電気・ガスの確保」 「廃棄物の処理」	1 (本時)	○環境に配慮した生活の仕方などについて課題を見付け、解決に向けて考えることができる。	○自分たちの行動が地球環境に与える影響について話し合う。 ○資料を活用したり、これまでの学習を振り返ったりして環境に配慮した生活の仕方について話し合う。 ◆環境に配慮した生活の仕方について課題を見付け、解決に向けて考えている。(思考力・判断力・表現力)
	5年 社会 「我が国の国土の自然の様子」	課外	○「自分たちにできること」の中から我が家の課題となる取組を調査する。	○節電・節水・物の使い方などの行動で我が家の課題となる取組を調査・インタビューする。

10月	「我が国の農業や水産業、工業生産」 6年 社会 「世界の中の日本の役割」 5年 理科 「自然界の水の行方」	2	○家庭での調査結果から、実践内容を考え、実践計画を立てる。	○自分の家族の生活を「環境への配慮」という視点で評価した結果から、問題点を考える。 ○同じ問題点を挙げた児童でグループを作り、グループで取り組む課題として実践課題を設定する。 (フィッシュボーン) ◆環境に配慮した生活の仕方などについて課題を見付け、解決に向けて考えたり、工夫したりしている。(思考力・判断力・表現力) ◆環境に配慮した生活の仕方などについて、よりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	6年 理科 「生き物のくらしと環境」	3	○同じ実践のグループで実践経過について情報交換する。	○実践前と実践後の様子がわかるように写真やイラストを活用して実践の様子をまとめ、意見交換する。 ◆自分の実践の成果がわかるように、まとめたり、意見交換したりしている。(思考力・判断力・表現力)
		4	○実践発表会を通して、「環境への配慮」へのさらなる実践意欲を高める。	○発表を聞き、自分が取り組んだ観点以外の実践で我が家に生かせるものがないか考える。 ◆環境に配慮した生活の仕方などについて理解している。(知識・技能) ◆環境に配慮した生活の仕方などについて、よりよくしようと工夫し、主体的に実践しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
私たちにできること 12月	6年 国語 「紹介パンフレットをつくらう」 6年 音楽 「リコーダーを演奏しよう」	5	○身近な人に感謝の気持ちを伝えるために何か行動しようという意欲を高める。	○他教科も含めたこれまでの学習を生かして、誰にどんなことをしてあげたいか話し合う。 ◆様々な人々と共に協力し合って生活するために、自分のできることを考えて取り組んでいこうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)
		6	○実践がよりよくなるように、話し合う。	○実践の計画を立て、準備や練習をする。 ◆様々な人々と共に協力し合って生活するために、自分のできることを考えて取り組んでいこうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)
	他教科		○対象学年に合わせた活動を行う。	○国語や音楽など、他教科の学習と関連させて、下学年の児童や家庭に向けて実践する。

私 た ち の 生 活 と 地 域  1 月	3年 社会 「地域の 人々の生 活」 5年 総合 「防災」 6年 総合 「私たちの 町」	7	○家庭生活が地 域の人々との 関わりで成り 立っているこ とが分かり、地 域の人々との 協力が大切で あることを理 解する。	○清掃されたごみ集積場や整備された公園の花壇の写 真を見て、町には地域の人々の働きがあることを知 る。 ○地域のルールや暮らしのマナーを調べる意欲をも つ。 ◆家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っている ことが分かり、地域の人々との協力が大切であるこ とを理解している。(知識・技能)
		8	○自分ができる ことを考えて、 家庭や地域で の実践計画を 立てる。	○ごみ集積場の使い方や地域行事への参画など、自分 が地域に関われることを考えて、実践の計画を立て る。(フィッシュボーン) ◆快適で安全な生活をするために、家族や地域の人々 とのよりよい関わりについて考えたり、工夫したり することができる。(思考力・判断力・表現力)
	課 外		○計画に沿って 家庭や地域で 実践する。	○ごみ集積場の清掃や公園の使い方、公道でのマナー など、個人の実践計画に合わせて実践する。
		9	○実践発表会を 通して、地域と の関わりにつ いてさらなる 実践意欲を高 める。	○実践したことを紹介し合い、自分と地域との関わり を考える。 ◆様々な人々と共に協力し合って生活するために、自 分のできることを考えて取り組んでいこうとしてい る。 (主体的に学習に取り組む態度)

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

○環境に配慮した生活の仕方について課題を見付け、解決に向けて考える。

### (2) 本時の展開 (1 / 9)

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援、◆評価	資料等
3	1 世界の1週間の食料の写真を見 て、話し合う。 ・日本は量が少ない。 ・イタリアはパンがとても多い。 ・エクアドルは種類が少ない。 ・日本はインスタント食品が多い。 ・日本は包装がとても多い。→ごみ ・ビニールのごみが多そうだ。	○3カ国の写真を児童にとって身 近になるよう日本、イタリア、 エクアドルの順番に提示する。 ○食品の包装の様子に意識が向く よう、バナナの比較写真を提示 する。	3カ国の 写真

7	<p>2 課題を挙げ、学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室移動の時扇風機や照明をつけっぱなしだった。</li> <li>・水を出す量が多かった。</li> <li>・洗剤をつけすぎてしまった。</li> <li>・ごみを分別できていない。</li> <li>・まだ使えるものを捨てていた。</li> </ul>	<p>○これまでの実習や日常生活から実生活を振り返れるように写真を提示する。</p> <p>○既習の「電気の無駄使い」→地球温暖化」の例を取り上げ、環境への影響を板書にまとめる。</p>	<p>活動の振り返り写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水の使い方</li> <li>・ごみの捨て方</li> <li>・電気の使い方</li> </ul> <p>温暖化の影響の写真</p>
<p>私たちの生活は環境にどのようなえいきょうを与えているのだろうか。</p>			
15	<p>3 グループで話し合いながら、環境への影響をグループシートに書く。</p> <p>【反応例 ①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビニールごみが多い</li> <li>→ごみが海をただよう</li> <li>→魚がビニールを食べる</li> <li>→魚が死んでしまう</li> <li>→人がその魚を食べる</li> <li>→人体へも悪い影響が出る</li> </ul> <p>【反応例 ②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみを分別できていない</li> <li>→燃えるごみが多くなる</li> <li>→たくさんのごみを燃やす</li> <li>→二酸化炭素が多く出る</li> <li>→地球温暖化</li> <li>→高い気温やスーパー台風などの災害が起こる</li> </ul>	<p>○板書を例にして、付箋紙とグループシートの使用方法を確認してから配布する。</p> <p>○1つの課題についての話し合いが終わったら、別の課題について話し合うように伝える。</p> <p>○話し合いが進まないグループには、プラスチックごみを食べた魚の写真を提示したり、資源ごみの考え方を助言したりする。</p> <p>○他の国や他の生き物への影響までで話が止まっているグループには、自分たちへの影響はないか揺さぶる。</p> <p>◆環境に配慮した生活の仕方について課題を見付け、解決に向けて考えている。(発言、グループシート)</p>	<p>グループシート 付箋紙</p> <p>海洋ごみ写真</p>
10	<p>4 いくつかの課題について、環境への影響を全体で話し合う。</p>	<p>○同じ課題について話し合ったグループから同じ意見や違う意見がなかったか発表させる。</p>	
5	<p>5 SDGs との関連を考えながら、話し合いを通して考えたことを書く。</p>	<p>○今日の学習と関連があるSDGsの目標に丸をつけるよう声をかける。</p>	

5	<p>6 自分たちにできる行動を話し合 う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙ごみと燃えるごみを分ける。</li> <li>・使わない電気はこまめに消す。</li> <li>・洗剤は必要な量を使う。</li> <li>・手を洗うときは水をこまめに止める。</li> <li>・買い物でビニール袋をもらわない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分事として課題を捉えている 児童の意見を取り上げる。</li> <li>◆環境に配慮した生活の仕方につ いて課題を見付け、解決に向け て考えている。(ワークシート)</li> <li>○課外で家庭調査を行い、家庭で の実践計画を立てていくことを 伝える。</li> </ul>	
---	--	---	--